

H31学力向上アクションプラン(白杵市)

目標及び指標

【目標】

- ①児童生徒の課題に関する目標
 - ・主体的・対話的で深い学びの実現による確かな学力の定着
- ②学校等が抱える組織的・構造的な課題に関する目標
 - ・授業改善に向けた学校ごとおよびブロック内のカリキュラムマネジメントの推進・通常の学級における「個別の指導計画」の作成・活用の推進
 - ・白杵市小中一体教育の深化・発展（学校間および校種間連携、「学習のきまり」の徹底）、幼保小の滑らかなつながり強化

達成指標	取組指標
○白杵市基礎基本テスト(3学期はじめに実施。小3年～中2年対象)において、全国平均正答率を超える。	指標1 確かな学力の定着のために、課題のある指導内容を小学校市内統一問題や「うすきチャレンジ」の問題作成への反映率 100% 指標2 各校の学力向上プランの取組指標を1ヶ月のPDCAサイクルで回すために「うすき市内統一問題」(小学校)の日常的・継続的な活用率100%、「中学校うすきチャレンジ」の日常的・継続的な実施率100%
○白杵市基礎基本テストでの児童生徒質問紙:肯定的回答割合 ○教科の勉強が好き(国語、算数・数学) 小国 70% 小算 60% 中国 65% 中数 55% ○教科の授業が分かる(国語、算数・数学) 小国 85% 小算 85% 中国 80% 中数 60%	指標1 特別支援教育の視点に基づく授業改善の推進にむけた通常の学級における「個別の指導計画」の作成・活用率100%(全18校) 指標2 「わかった、できた」と子どもが実感できる方策を発信するための学力向上支援教員等がカリキュラムマネジメントするTU(チーム白杵)研修の年3回実施率 100%
「学校マネジメント4つの観点」における大分教育事務所の評価 「観点I(重点目標達成に向けた検証・改善等)」および「観点II(客観的なデータを用いての取組指標に基づく取組状況の確認等)」の評価:全てA以上(2回目) H30年度 小学校 100% 中学校100%	指標1 重点目標達成に向けた検証・改善のための小中一体教育の全ブロックの学力向上部会における分析結果をもとにした協議の実施率 100% 指標2 客観的なデータを用いての取組指標に基づく取組状況の確認の徹底に向けた、「白杵っこ中1統一テスト」を実施し、結果を各小学校との情報共有する実施率 100%

行動計画

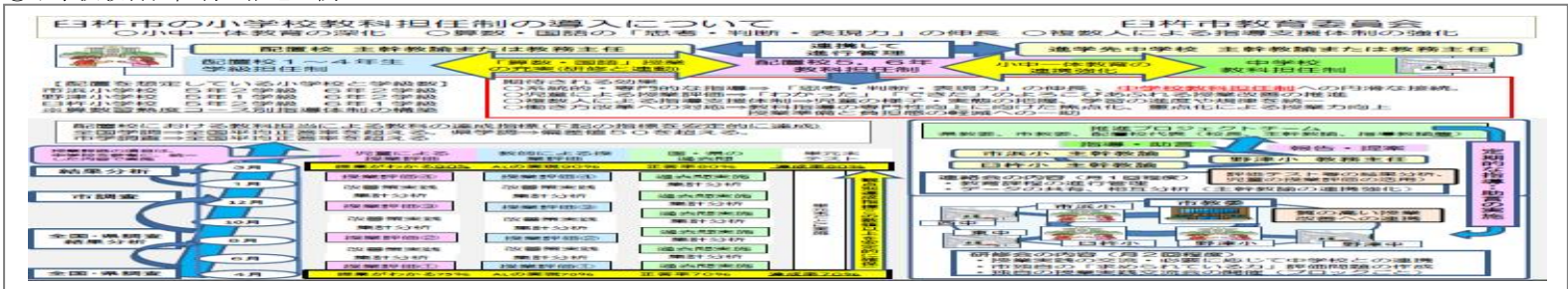
①「新大分スタンダード」に基づく組織的・計画的な授業構想と実施による質の向上について

- (1) 新大分スタンダードにもとづく「主体的・対話的で深い学び」の実現
 - ①授業改善「39チェックシート」の重点項目の徹底 ②大分大学と中学校の数学部会・理科部会との連動した研修会
 - (2) 若手教員のスキルアップ
 - ①若年層を対象に長期休業等を活用し、授業実践学習会を開催⇒指導教諭、学力向上支援教員等を講師として活用
 - ②中学校3つの提言推進重点校である西中学校の教科部会への参加
 - (3) 校長会の学力向上プロジェクトと市教委の連動
 - ①組織的な学校運営・経営力の向上のための管理職・ミドルリーダーの人材育成②小学校:授業塾(教師塾)の開設 定例開催(平日夜・土曜日等)による指導力向上
 - ③小学校:長期休業中の市内統一問題の日常的・継続的な活用
 - ④中学校:うすきチャレンジ(15の春に向けての15分)の組織的・継続的な実施。チームで活用問題を作成し、解答類型づくりにより、日常の授業改善。
 - (4) 授業改善の取組を活かしたカリキュラム・マネジメントの推進
 - ①小:学力向上支援教員を効果的に活用した実効性のある授業改善の実施
 - ②中:ミドルリーダーが達成指標を設定しカリキュラムマネジメントするTU研修A(年3回)の仕組みを構築ミドルリーダーによるTUP会議を定期的に開催
 - ③幼保小連携によるスタートカリキュラムの徹底及び合同研修の実施。幼児教育アドバイザー及び幼児教育推進コーディネーターを活用
- (5) 特別支援教育の視点からの授業改善
 - ①通常の学級における「個別の指導計画」(様式:市内統一)の作成・活用推進⇒全指導計画の管理(市教委への提出)
 - ②「個別の指導計画」の作成・活用推進に向けた研修会(個別相談も含む) ③授業のUD化の推進

②「中学校学力向上対策3つの提言」の3つの項目(6つの視点)の実施に関して

- 3つの提言推進重点校である西中学校を核とした協働的、組織的な授業改善を推進し、チーム白杵による『「わかった」「できた」の声が響きあう授業づくり』を行う。「教師の授業力の差による生徒の学力差を生まないためのつながるTUP」
TUP(チーム白杵プロジェクト)会議を毎週金曜午後に開催し、ミドルリーダーによる授業改善のしくみを構築する。メンバーは、指導教諭、学力向上支援教員、習熟度別指導推進教員、市教委指導主事等で行う。
- 【提言0】ベースとして、小中一体教育の学力向上部会を充実し、家庭学習や生活習慣づくり、学習規律の統一等について組織的に取り組む。
- 【提言1】①学力向上支援教員、習熟度別指導推進教員等の公開授業は、新大分スタンダードにおける白杵市の課題についてTUPで検討し、指導案を作成。公開授業後の「TU研修」をミドルリーダーがカリキュラムマネジメントを行って実施する。
②中学校研究主任会を西中で開催し、各校の3つの提言についての検証改善を行う。
- 【提言2】①南中(小規模校)教員や若手教員は、西中の教科部会に参加して評価問題を交流、県教委の指導主事が入る授業研究に参加できるしくみを構築。
②学校規模に応じたタテ持ちを行い、各校の教科部会の充実する。また、白杵市の教科部会で、TUPで分析した各種学力調査の結果を共有し、授業改善。
- 【提言3】
①全5校の生徒による授業評価を授業改善へ活かす方法について、教務主任会と研究主任会で交流し、生徒が「わかった」「できた」を実感する授業づくり。
②全5校の学習委員会等の設定する学習目標の振り返り活動について、研究主任会や特別活動部会で交流し、学びに向かう学校づくりを推進。

③小学校教科担任制の推進に関して



④新学習指導要領の実施等に関して

- i) 外国語活動先行実施(H31年度より 小3, 4年 35h、小5, 6年 70h)に向けた研修会の実施
- ii) カリキュラムマネジメント研修(管理職対象) 岐阜大学教育学研究科 原尚特任教授招聘
- iii) 「主体的・対話的で深い学び」研修会の実施 鳴門教育大学泰山裕先生招聘した実践研究会の開催
- iv) 地域とともにある学校づくり(コミュニティ・スクール)について
協育コーディネーターを核としたコミュニティ・スクールの構築、うすきふれあい学校との連動による家庭、学校、地域が協働した子ども育ての推進
- v) ICTの活用及びプログラミング教育への対応について ICTスマートデザイナー(新、旧)を核とした研修、授業実践の交流
- vi) キャリア教育①モデル校を核としてキャリアパスポート等を発信する研究発表。小中一体教育において、白杵南小学校とのカリキュラムをマネジメントする。

